

あしたのまち・くらしづくり内閣総理大臣賞受賞 1周年記念青葉台フェスタ開催

10月8日(土) 10:00~16:00 自治会館集會室にて

第1部(10:00~12:00)

~39PJ成果発表会~

- ①古寺会長挨拶
- ②来費挨拶：市原市長ご挨拶の代読頂いた山形市民生活部長、伊佐市議員、加瀬姉崎高等学校校長。
- ③39PJの歩み紹介：古寺委員長長の熱血説明が好評。
- ④39PJの2チームが取り組みを発表。
- ⑤ゾーン30プラス
(森垣リーダー)：7月に青葉台全域にヒヤリハットアンケートを実施。住宅街の中にも危険個所があることが分かった。
- ⑥地域交通対策(田中39PJ事務局長)
7月からデマンドタクシーについて検討。現状の問題を解決し将来の問題に対応できるようにしていきたいと構想を発表。



※写真は抜粋

⑦昨年募集し採用曲となった青葉台音頭の踊りが披露された。

第2部(13:30~16:00)~お楽しみイベント~

- ⑧大道芸：千葉の敬愛学園高校大道芸同好会の1・2年生男女5名によるパフォーマンス。
- ⑨キッズビンゴ大会は会場に入りきれないほどのキッズが大集合。
- ⑩続いてビッグビンゴ大会も大盛況。
- ⑪ビンゴゲームには姉崎東中の生徒14名がボランティアでサポート。
- ⑫北海道物産展は12時からノール横の旧ネーブル前で実施。3丁目の皆さんが売り子を担当され大盛況でした。(藪木)



39PJがスタートして初めての大会イベントでしたが、生憎の雨でイベント規模は約半分程に縮小。来年の青葉台フェスタにご期待ください。

青葉台ヒヤリハットマップについて



分野：災害や犯罪に強い街づくり
課題：ゾーン30プラス導入検討



ヒヤリハットアンケートにご協力頂き、ありがとうございました。皆様から約600件の体験報告を頂き、それを基にヒヤリハットマップを作成することがで

きました。『青葉台ヒヤリハットマップ』は既にお手元に届いていると思います。マップには、皆さまが体験した場所を1件毎に、更に内容によって色分けしてマークしています。マークが集中している箇所が【体験の多い場所】=【危険な場所】です。表面右側と裏面に特に危険な場所について説明していますので、併せて確認をしてください。さて、プロジェクトではアンケート結果や作成したヒヤリハットマップを基に市原警察署・市役所の合同打ち合せで説明を行い、対策をお願いしました。青葉台を少しでも事故や危険の無い街にするために、今後も引き続き各行政機関と協議を行い、対策を考えて参ります。(チームリーダー森垣)



低温発芽させたパンジー苗のポット植え替え



分野:美しい街づくり
課題:ohanaいっぱい活動

9月21日堺指導員宅に各町会から約10名の育苗協力が参集しました。今年は、市の苗の供給時期と合わせた一斉植え付けができるように夏の時期にクーラーボックスを利用してパンジーの低温発芽に挑戦しました。その苗を持ち寄り、9cmポットへの植え替えを行いました。堺指導員から何点かの注意事項を教わり、また直接の指導を受けながら約240本の苗の植替を約2時間かけて終了しました。ピンセットで苗をつまんで植える、とても手先の細やかさを要求される作業でしたが、時々ミスを指摘される緊張感の中にも和気あいあいとした雰囲気を感じられて、大変充実した楽しい達成感のある時間を過ごすことができました。この苗は育苗者が各自持ち帰り自宅で約一ヶ月間以上、水遣り、施肥等大切に育てられて、10月30日の花壇への植付に使用されます。尚、一丁目に開設されたapollo cultivateparkに苗作りの場所を借用できることが決まりました。これで陽当たり問題も解決された苗床が実現します。(石原)



地域のあたらしい変化～出光興産のコミュニティ菜園がオープン～

1丁目15番地2に出光興産が手掛けるコミュニティ菜園が7月23日オープンしました。apollo cultivateparkと刻まれた門をくぐると、柵で囲まれたKronosfarmと呼ばれる菜園があります。ここで、責任者の新井さん(同社デジタル・ICT推進部)に出迎えていただきました。取材当日は、会員の方による初めての土入れ、野菜種蒔きが行われていました。通常の畑に相当するものとして、木製プランターが大小9基設置されていて1基のプランター

で1種類の野菜を栽培します。みんなで協力して作りシェアするスタイルです。ニンジンの種蒔きが行われていましたが、小さな子供さんも一緒になって和やかな風景です。コミュニティスペースも常設されていて交流し易い場所づくりもされています。これからの水やりや追肥などの手入れは、プランターに取り付けられたIoTセンサーの情報をもとにgrowと呼ばれる育成ナビの案内を楽しみながら準備ができるようになっていきます。また、出光興産の千葉事業所食堂で生じる生ごみの一部を、3段階の発酵を経て当菜園の堆肥としてこれから活用する予定とのことで、SDGsにも配慮されています。現在、会員は16組、まずは20組程度にはしたいと新井さん。また、農家さんと消費者を直接繋ぐマルシェで、新鮮な有機野菜を提供するイベントも9月に実施されています。秋空の下、野菜作りのシーズンになってきました。是非、apollo cultivateparkを覗いてみてください。(藪木)

